

補助事業番号 20-1-002

補助事業名 平成20年度 サイクルスポーツ施設の整備等補助事業

補助事業者名 財団法人 自転車センター

1. 補助事業の概要

(1) 事業の目的

野外活動を通じて国民の心身の健全な育成に資するため、サイクルスポーツを中心とした体育施設を整備してサイクルスポーツの普及啓発を図り、もって公益の増進に寄与する。

(2) 実施内容

①施設建設整備工事

(1) 休憩広場整備工事

福祉・高齢化社会を迎えた昨今、くつろぎのある空間・リラックスできるスペースの提供はスポーツとの共有する課題でもあり重要視されております。当センターも同様に、緑あふれるくつろぎの空間で少しでもやすらぎを与える施設づくりを進めてまいりました。

当センターは、山間部に位置し場内の起伏を利用した施設づくりが中心で数少ない平らな場所を利用し、イベントの開催や行楽シーズンなどの休憩エリアとして整備を行ない活用しております。

本工事は、一般利用者が特に望まれている雨よけ・日よけのできる休憩エリア・経年使用により手摺り・床板の腐食がある休憩デッキを整備し、来場者のニーズに応え、快適に当センターを利用していただくため実施いたしました。

(工事内容)

- 雨よけ設備新設工事 一式
- 木デッキ整備 一式

(2) サイクリングコース休憩広場整備工事

当センターは昭和49年開設以来誰もがサイクルスポーツに親しむことのできる施設づくりを目指し、サイクリングコース・変わり種自転車広場を中心に営業してまいりました。なかでもサイクリングコースは緑豊かな自然の中でさわやかな風を肌で感じ、家族・仲間と楽しく健康づくりのできる施設として大変好評を得ています。

また近年、環境・健康に対する関心が高まるなか自転車に対する認識の変化が進み、当センターでのサイクリングコースの利用者の年齢層も広くなり、3世代で楽しそうに利用される光景が増えてまいりました。

しかしながら、当センターのサイクリングコースはスポーツの増進・健康促進を目指した設計がなされており、また山間部にあることからアップダウンの勾配が激しくちいさなお子様や高齢者の方にとっては不向きな点もあります。

このようなことから電動アシスト車等の導入を図ってまいりましたが、利用者が望むくつろぎ・自然とのふれあいといった環境を提供するに至っていないのが現状です。

よって、当センターのサイクリングコースで一番上り坂が長い箇所の中腹に来場者のニーズにあった環境、くつろぎ・自然とのふれあいをコンセプトに休憩エリアの新設工事を実施いたしました。

(工事内容)

- サイクリングコース休憩広場整備工事 一式

②施設点検安全対策整備工事

(1) 変わり種広場安全対策整備工事

当センターは昭和49年開設以来誰もがサイクルスポーツに親しむことのできる施設づくりを目指し、サイクリングコース・変わり種自転車広場を中心に営業してまいりました。なかでも変わり種自転車広場は老若男女・不特定多数の方々が変わった形・面白い動き等他に無い自転車で、自由に楽しく遊んでいただくことのできる施設であり、当センター来場者の9割近い方々が利用され大変好評を得ております。

しかしながら、利用者のアンケートや自転車同士の接触によりケガをする利用者も後を絶たないのが現状です。混雑時は大型自転車の走路を埋め尽くすぐらいの人手になり、事故防止のための誘導整理・監視をしている従業員もひやりとする場面が多数見受けられるのが現状です。

このようなことから、広場の約半分を改装し、大型自転車の走路改修と現状の区画整理を行なうことにより利用者の安全を確保し、より一層楽しんでいただけるよう変わり種広場安全対策整備工事を実施いたしました。

(工事内容)

- 変わり種広場走路リニューアル工事 一式
- 建物内リニューアル工事 一式

(2) サイクルリージュ安全対策整備工事

サイクルリージュ施設は、標高約330mの絶景の場所に位置し、利用者がハンドル操作・ブレーキ操作をおこない全長330mのコースを自走する乗り物として小学生からシルバー層の方々にニュースポーツとして大変人気があり、好評を得ております。

また、当施設を利用いただく前に映像にて施設の内容等を確認していただき、コーススタート地点にて操作方法・注意事項等のレクチャーをおこない安全にご利用していただいております。さらには、コースの改良・安全マットの増設をおこないながら安全対策に努めてまいりました。

しかしながら、不特定多数の利用者があり、世間にあまり認知されていない乗り物であることから、車両がマットに接触し黒ずみ傷みが生じ美観を損なうと共にマットとしての機能が果たせなくなりました。

このようなことから、利用者に更なる安全を提供するため安全マットの増設の整備工事を実施いたしました。

(工事内容)

- コース内安全マット取付工事 一式

③車両購入

(1) 自転車購入

当センターにおける自転車施設(サイクリングコース・変わり種自転車)の利用は順調に推移し、春・秋の行楽シーズンを中心に一般来場者をはじめ学校団体・地域子供会・職域団体、さらにはスポーツクラブなどの団体等に幅広く利用されている為、利用者の身長はもとよりニーズに合わせた各種サイズ等を用意する事が要求されます。

当センターでは、各メーカーの最新車両をいち早く導入し不特定多数の利用者に情報発信を行ない、利用後の販売促進にも成果をあげております。

しかしながら、利用頻度に伴い、故障・部品の消耗が激しく、その都度部品の交換や日常の保守点検整備に努めておりますが、5年以上経過すると各部の損傷によ

り各車種の買い替えが必要であり、現在は3世代での利用が増加しており高齢者のアイテムも必要となっております。

また入場者の9割近い方が利用し、市町村等公共団体や一般施設のモデルになっている変わり種自転車は、利用頻度も非常に高く各部の消耗・複雑な作りによる故障、さらに新鮮さ・話題性が要求される乗り物であり、利用者のアンケートでも「もっと沢山の自転車を増やして欲しい」等の意見も数多くあり、随時入替えが必要とされます。

よって、来場者のニーズに応え、また自転車普及に向け自転車各種の購入をいたしました。

(購入内容)

- サイクリングコース用自転車 (24~26吋・電動アシスト) 20台
- 変わり種自転車 50台

④普及啓発

(1) 広報活動

・テレビ広告

マスメディアの中でも一般不特定多数を対象に最も影響力があるテレビを活用して、入場者の増員に繋げ、自転車に関して広く普及啓発を図る事を目的に事業の実施をいたしました。

実施にはファミリー層からヤング・熟年層まで幅広いターゲットに対し、放映時期や放送時間、放映局等を十分に考慮したスポットCMの放映、ならびに自転車のテーマパークである当センターの魅力と内容を時期に合わせて的確に伝えられるように考慮したCM素材の制作をいたしました。

(実施内容)

- スポット広告 民放V局及びU局におけるスポットCMの放映
- 同上フィルム制作 通年放送用フィルム及び各催事向けフィルムの制作

・雑誌広告

テレビ等に比べて読者層が比較的明確であり、情報量が多く、保存性・回読性の高い雑誌を利用し、伝えたいターゲットに広く当センターを認知頂き、来場者の増員に繋げ、自転車に関して広く普及啓発を図る事を目的とし事業の実施をいたしました。

実施には、その都度有効な印刷媒体を調査研究し、臨機応変に対応できるように考慮し、中高生からヤング層にかけて情報発信をしている雑誌や、中高年層に情報発信を行なっている雑誌、広く一般に情報発信を行なっている新聞や折込みチラシ、駅構内広告等に対しての広告掲載、及び自転車のテーマパークである当センターの魅力を的確に伝えられる様に考慮した宣伝素材を制作いたしました。

(実施内容)

- 雑誌等広告 雑誌や新聞、その他印刷媒体における広告の掲載
- 同上素材制作 季節や催事に合わせた広告素材の制作

(2) サイクル活動普及事業

・四車連対抗自転車競技大会

四車連対抗自転車競技大会は、一般市民の自転車競技への理解を深め、選手の競技レベルの向上を目指して、アマチュアの競技団体を構成する実業団・クラブチーム・大学生・高校生からなる各団体の対抗戦形式のトラックレースとして平成5年から実施してきました。

本大会では、国体などで活躍する選手が参加するほか、見る側を中心に考えられた新しい種目・競技方法の採用などに成果をあげてきました。また、実業団で中央大会に参加する選手や高校生も、同じレースを行なうことのできる唯一の大会でもあります。

各地で行われるピスト競技大会への参加者が減少傾向にある中、「気軽に参加できる」「出場種目を選べる」「憧れの選手と一緒に走れる」と参加者の立場に立った競技大会は多数の参加者が集まることを証明しました。

さらに、本競技にはプロ選手のオープン参加及び模範競技も同時に行い、双方のコミュニケーションも図っております。

これらの実績成果から四車連対抗自転車競技大会を実施いたしました。

(事業内容)

実施場所 関西サイクルスポーツセンター内競技場

実施内容 自転車競技4団体による対抗戦・自転車競技

・集客イベント

本事業は、広く一般大衆に対して、当財団が運営する自転車のテーマパークである関西サイクルスポーツセンターへの来場意欲を促進し来場者の増員に繋げ、自転車に関して広く普及啓発を図る事を目的とし、年間を通じて最も集客が期待できる7月から8月を中心に実施いたしました。

平成19年度に引き続き平成20年度もプールイベントをメインに据え、スポーツ施設である当センターのプールの存在を一層一般に認知いただけるよう実施いたしました。

また、スポーツイベントの開催、さらに、利用者からニーズの高い小さなお子様向けのイベントの実施や、ヤング層やシニア層にも関心を持っていただける自転車の普及啓発を図る自転車イベントを実施いたしました。

(事業内容)

実施場所 関西サイクルスポーツセンター

実施期間 夏休みから秋期間

実施内容 夏期通しイベントの開催

スポットイベントの開催

センター内外でのイベント告知

2. 予想される事業実施効果

①施設建設整備工事

福祉・高齢化社会を迎えた昨今、緑あふれるくつろぎのある空間・リラックスできるスペースを来場者に提供することにより施設全体のイメージアップにつながりシルバー層、低年齢層の来場者の層が広まり自然の中でのサイクルスポーツをより一層満喫していただけるほか、今後の集客においても不特定多数の来場者を迎えることができるかと予想いたします。

②施設点検安全対策工事

当センターは不特定多数の来場者に、健康・やすらぎ・安全を提供しております。本工事により、その来場者及び当センター地域住民の安全と安心を確保することができ、安全への取り組み姿勢が評価され、口コミによる利用者はもとより当施設に対する認識が高まると予想いたします。

③車両購入

常に新しいものへのこだわりを追求し、快適にサイクリングできるよう自転車を導入したことにより、絶えず利用者にインパクトを与えることができ、自転車販売促進に寄与していると確信しております。また、変わった形・動きをテーマに制作された変わり種自転車を導入することにより利用者に対し、自転車の楽しさをアピールしております。自転車の快適さ・楽しさ等をアピールすることにより、サイクリング人口の増加と普及さらに環境や健康への意識の高まりにつながると予想いたします。

④普及啓発

今後、CO₂を排出しない地球環境に優しい自転車、有酸素運動による健康促進等を広くアピールする事により、安定した入場者数を得る事ができると予想されます。さらに自転車の展示会や集客イベントの開催による誘致で、不特定多数の来場者を確保する事で、学校団体・職域団体・地域団体・スポーツ団体などより多くの人々の利用促進に繋がり、自転車の普及活動を行う事で、自転車の利用促進に繋がるものと予想されます。

3. 本事業により作成した印刷物

四車連対抗自転車競技大会プログラム 300冊

4. 事業内容についての問い合わせ

団体名： 財団法人 自転車センター（ジテンシャセンター）

住所： 586-0086

大阪府河内長野市天野町 1304

代表者名： 理事長 森本 龍男（モリモト タツオ）

担当部署： 総務部（ソウムブ）

担当者： 永池 摩弥（ナガイケ マヤ）

電話番号： 0721-54-3100

F A X： 0721-54-1717

E-mail： soumu@kcsc.or.jp

U R L： <http://www.kcsc.or.jp/>